

# KANAE TECHNOS

## 環境経営レポート エコアクション21

対象期間：【第35期】 2019年11月～2020年10月



株式会社 カナエテクノス

■ 組織の概要	
1. 事業所名 / 代表者名	3
2. 所在地 / 連絡先	3
3. 管理責任者	4
4. 事業内容	4
5. 事業規模	4
6. 会社沿革	5
■ 対象範囲／環境管理体制	
1. 認証・登録の対象範囲	6
2. 環境管理体制	6
■ 環境経営方針	
1. 基本理念	7
2. 行動指針	7
■ 環境経営目標と実績	
1. 環境経営目標の設定値	8
2. 環境経営目標の実績と評価	9
3. 環境経営目標の実績の推移	10 - 11
■ 環境経営計画の内容と取組結果の評価	
1. 環境経営計画の取組内容	12 - 13
2. 環境経営計画の取組結果の評価、次年度の取組み	14
■ 環境関連法規等の遵守状況・評価並びに違反、訴訟等の有無	15
■ 代表者による全体の評価と見直し・指示	16
■ 社内教育等の取り組み	17



# 組織の概要

## 1. 事業所名 / 代表者名

株式会社 カナエテクノス / 代表取締役社長 上坂 史郎

## 2. 所在地 / 連絡先

- **本社工場** 香川県観音寺市柞田町丁93番地27  
TEL 0875-56-0850 (代) FAX 0875-56-0815
  - **本社第2工場** 香川県観音寺市柞田町丁93番地17  
TEL 0875-23-7051 (代) FAX 0875-23-7061
  - **観音寺工場** 香川県観音寺市出作町757番地  
TEL 0875-57-5350 (代) FAX 0875-57-5370
- URL : <https://www.k-technos.com/>



東京都



### 3. 管理責任者

環境管理責任者： 庄野 明博（専務取締役）  
 担当者： 藤田 香里（総務部 経理課課長）  
 担当者連絡先： 0875-56-0850

### 4. 事業内容

〔製造並びに販売〕

化粧品 医薬品 / 医薬部外品 医療用品 衛生用品 介護機器 / 介護用品

動物用医薬品 栄養保存食品及び栄養補助食品 紙類 防虫剤, 芳香剤



### 5. 事業規模

資本金：2億4千万円

売上高：81億円（2019年10月21日～2020年10月20日）

	本社	観音寺工場	本社第2工場	東京営業所
従業員	118名	17名	100名	6名
延べ床面積	8,276 m <sup>2</sup>	3,142 m <sup>2</sup>	7,076 m <sup>2</sup>	33 m <sup>2</sup>

## 6. 会社沿革

弊社独自の商品開発力と特殊加工技術、高い生産力および品質管理力を結集、社員一人一人のマンパワーを活かに、「高い生産力と品質力の結合した企業」を実践し、私どもはOEM加工会社として、国内外のお客様から厚い信頼をいただいております。



品質本位の「モノ」造りのプロフェッショナル集団として  
「つねに前へ」

—— 多様化するユーザーとマーケットのニーズを早急に謙虚に採り入れ、  
スキンケアシート商品で **グローバル No.1** を目指してまいります。

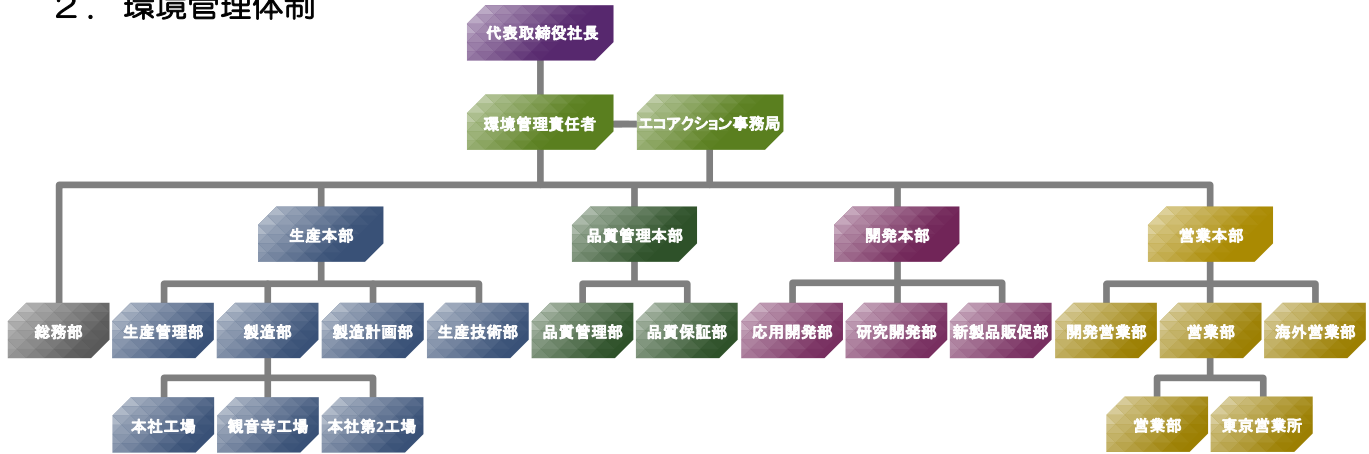


# ■ 対象範囲／環境管理体制

## 1. 認証・登録の対象範囲

登録事業所 : 本社・本社工場、観音寺工場、本社第2工場、東京営業所  
 活動レポートの対象期間 : 2019年11月～2020年10月

## 2. 環境管理体制



		役割・責任・権限	
代表取締役社長		<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営に関する統括責任</li> <li>環境経営システムの実施に必要な、人、設備、費用、時間を準備</li> <li>環境管理責任者を任命</li> <li>環境経営方針の策定</li> <li>代表者による全体の評価と見直しを実施</li> </ul>	
	環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営システムの構築、実施、管理</li> <li>環境経営方針の見直し及び全従業員への周知</li> <li>全従業員に対する教育・訓練の実施</li> <li>環境関連法規等取りまとめ表の作成</li> <li>環境経営目標、環境経営計画書を承認</li> <li>環境経営の取り組み結果を代表者に報告</li> <li>環境経営レポートの作成</li> <li>環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> </ul>	
		部門長	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境管理責任者の補佐</li> <li>環境負荷の自己チェック及び、環境への取り組みの自己チェックの実施</li> <li>環境経営目標、環境経営計画書の作成</li> <li>環境活動の実績集計</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>自部門の特定された緊急事態への対応マニュアル作成</li> <li>自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>自部門の特定された緊急事態への対応マニュアル作成</li> <li>自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施</li> </ul>			
全従業員		<ul style="list-style-type: none"> <li>自部門の特定された緊急事態への対応マニュアル作成</li> <li>自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚</li> <li>決められたことを守り、自主的、積極的に環境活動へ参加</li> </ul>	



## 基本理念

当社は ” 豊かな自然に恵まれた地球の環境を永遠に保っていくこと ” が私たち人類の果たすべき使命であると自覚し、環境負荷の少ない製品造りを行うとともによき社会の一員として、環境保護活動への参画、支援に取り組み、地球環境の保全に努めます。

## 行動指針

1. 国、地方自治体などの環境法規制を遵守し、環境保全に努めます。
2. 省エネルギーを行い、二酸化炭素の削減に努めます。
3. 廃棄物の削減に努めます。
4. 排水量の削減に努めます。
5. 化学物質の最小限度の使用に努めます。
6. グリーン購入に努めます。
7. 環境にやさしい製品の開発に努めます。
8. 環境保護活動への参画・支援を推進します。
9. 持続可能な社会に貢献する製品の開発に繋がります。

これらについて、環境経営システムを構築して、環境経営目標、環境経営計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。その成果を、環境経営レポートにまとめて、社内外に公表します。

制定日：2020年 9月 21日

株式会社カナエテクノス

代表取締役社長 上坂 史郎

# 環境経営目標と実績

## 1. 環境経営目標の設定値

項目	単位	環境目標値			
		《基準年》 34期 (2019年)	〔対象年〕 35期 (2020年)	36期 (2021年)	37期 (2022年)
二酸化炭素の削減 *1	kg-CO <sub>2</sub>	3,141,419			
生産1 t 当たりの二酸化炭素	kg-CO <sub>2</sub>	373	369	366	362
電気使用量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	2,946,327			
	kWh	4,209,038			
その他 (LPガス・ガソリン・軽油)	kg-CO <sub>2</sub>	195,092			
生産1 t 当たりの電力使用量	kg-CO <sub>2</sub>	350	347	343	340
廃棄物排出量の削減	t	3,617.0			
生産1 t 当たりの廃棄物排出量	t	0.43	0.43	0.42	0.42
水総使用量の削減	m <sup>3</sup>	17,301			
生産1 t 当たりの水使用量	m <sup>3</sup>	2.05	1.90	1.90	1.90
生産重量	t	8,421.0			
化学物質使用量の削減 *2	kg	7,490.0	7415.1	7340.9	7267.5
グリーン購買の推進	円	3,154,168	3,469,585	3,816,543	4,198,198
組織本来の取組 (品質異常発生率の削減) *3	発生率 ppm	0.20	0.19	0.19	0.18

\*建設業・製造業 ⇒ 原単位

\*その他 ⇒ 実数

- \* 1. 電力のCO<sub>2</sub>発生量については、四国電力の実排出係数 0.700 (kg-CO<sub>2</sub> / kWh) を使用した。  
(四国電力発表平成24年度実績に基づく)
- \* 2. 化学物質を「アセトニトリル」と「クレワット」で算出していたが、見直した結果、①クレワットが対象物質ではないこと、②メッキンスMが対象物質となる為、対象物質を変更して32期以降のデータを見直した。
- \* 3. 組織本来の取組として「品質異常発生率の削減」に取組みます。  
品質異常発生率 = 品質異常発生件数 / 生産数量





## 2. 環境経営目標の実績と評価

取組期間 : 35期 (2019年11月 ~ 2020年10月)

目的	単位	基準年34期 (2018年11月~ 2019年10月)	35期目標 (2019年11月~ 2020年10月)	35期実績 (2019年11月~ 2020年10月)	達成率	評価
二酸化炭素の削減	kg-CO <sub>2</sub>	3,141,419		2,795,317		
生産1 t 当たりの二酸化炭素	kg-CO <sub>2</sub>	373	369	353	104.6%	○
電気使用量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	2,946,327		2,622,262		
	kWh	4,209,038		4,086,811		
その他 (LPガス・ガソリン・軽油)	kg-CO <sub>2</sub>	195,092		173,055		
生産1 t 当たりの電力使用量	kg-CO <sub>2</sub>	350	347	331	104.6%	○
廃棄物排出量の削減 (産業廃棄物量の削減)	t	3,617.0		3,151.0		
生産1 t 当たりの廃棄物排出量	t	0.43	0.43	0.40	107.0%	○
水総使用量の削減	m <sup>3</sup>	17,301		16,678		
生産1 t 当たりの水使用量	m <sup>3</sup>	2.05	2.05	2.11	97.3%	△
生産重量	t	8,421.0		7,919.0		
化学物質使用量の削減	kg	7,490.0	7,415.1	6,297.0	117.8%	○
グリーン購買の推進	円	3,154,168	3,469,584	2,667,375	76.9%	△
組織本来の取組 (品質異常発生率の削減)	発生率 ppm	0.20	0.19	0.19	100.0%	○

### 【評価基準】

○：達成    △：未達成だが、努力が見られる    ×：未達成

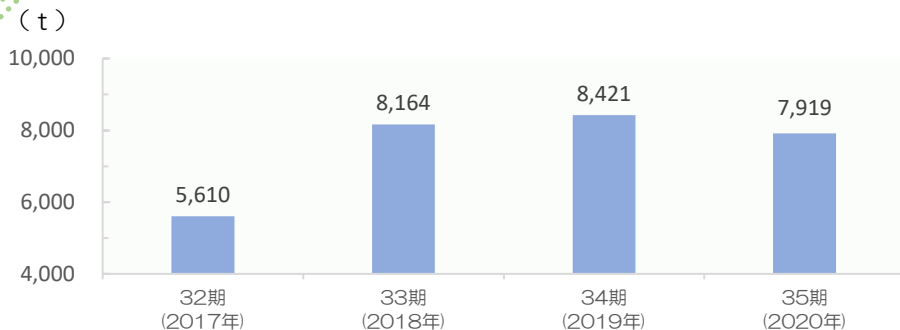
### 【コメント】

- 8月より、四国電力からENEOSでんきへと移行したことにより、35期実績については、1~7月までは、四国電力の実排出係数0.700 (kg-CO<sub>2</sub> / kWh) 8月より、ENEOSでんきの調整後排出係数0.494 (kg-CO<sub>2</sub> / kWh)を使用した。
- 「グリーン購買の推進」については金額としては未達成となったが、事務用書類の電子化によって、コピー用紙の購入が減少したことと消耗品関係の購入も減少したことによる。従って結果的にはエコに寄与したことによる。

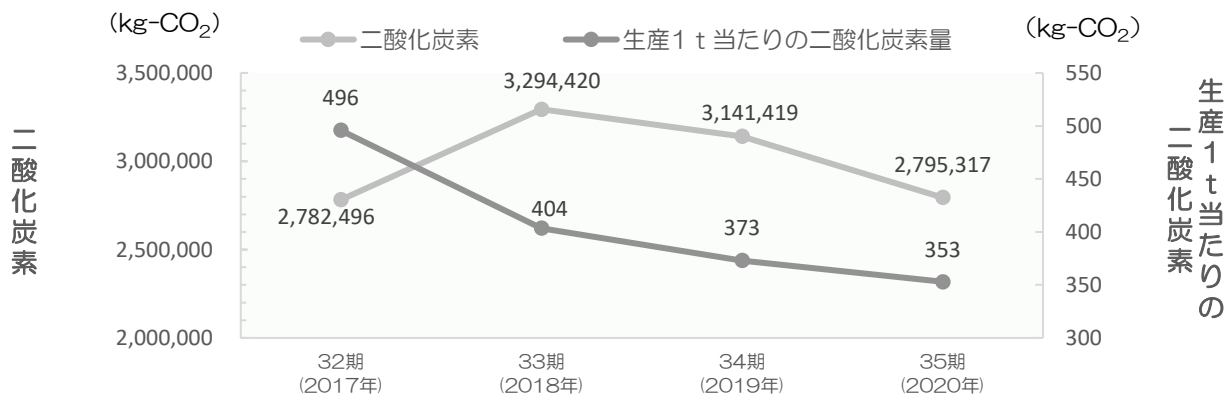


### 3. 環境経営目標の実績の推移

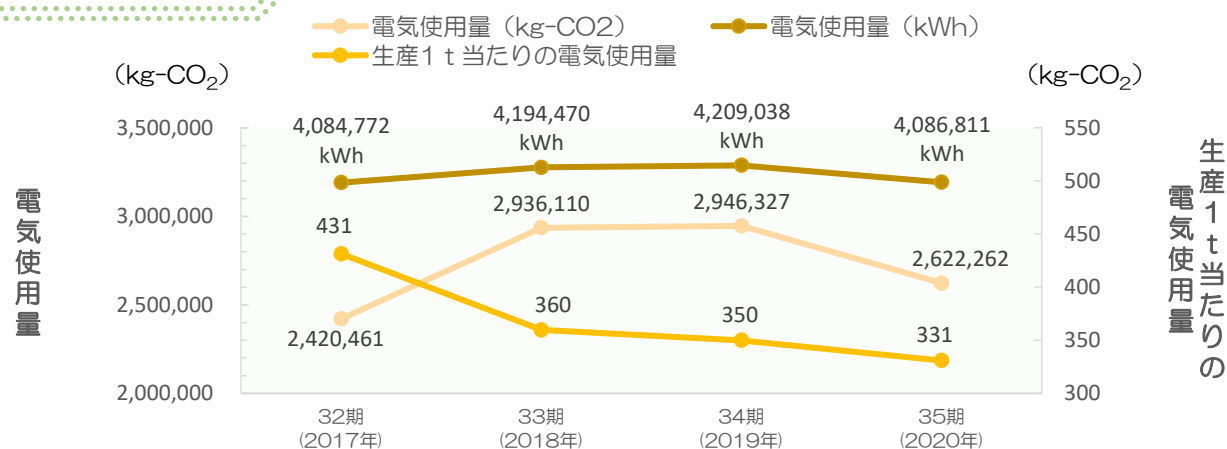
#### ■ 生産重量



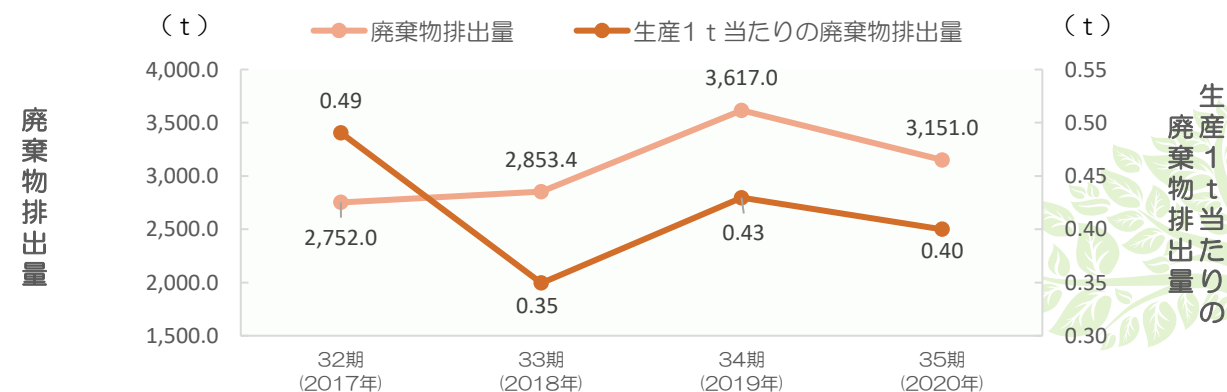
#### ■ 二酸化炭素の削減



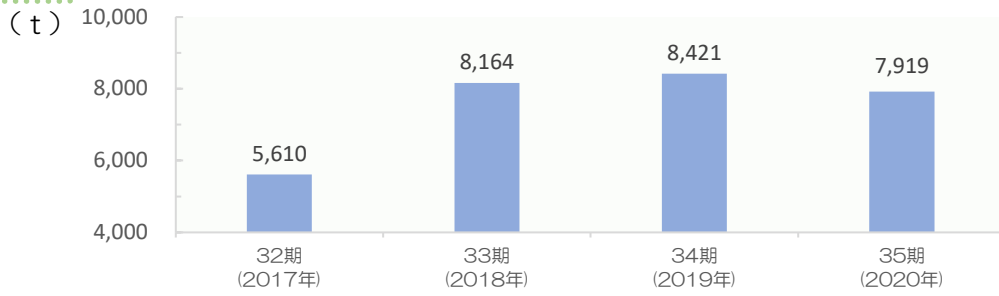
#### ■ 電気使用量の削減



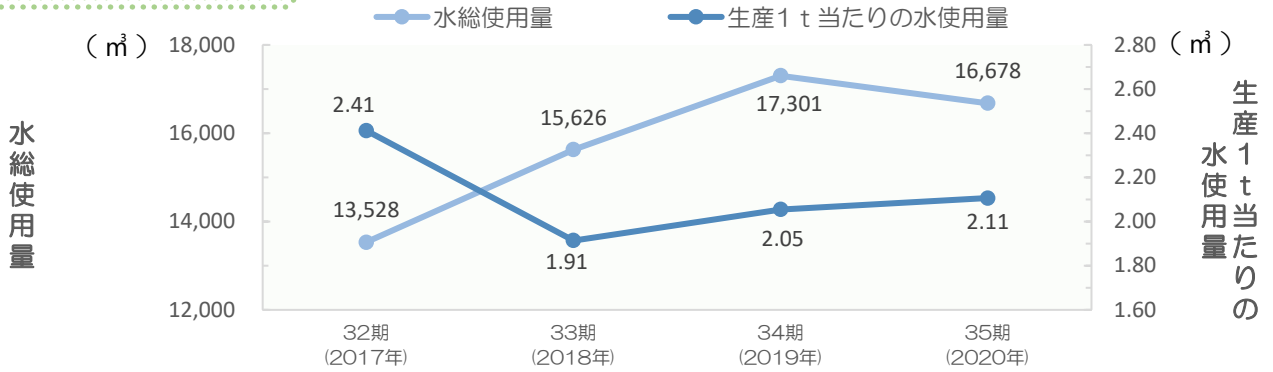
#### ■ 廃棄物排出量の削減



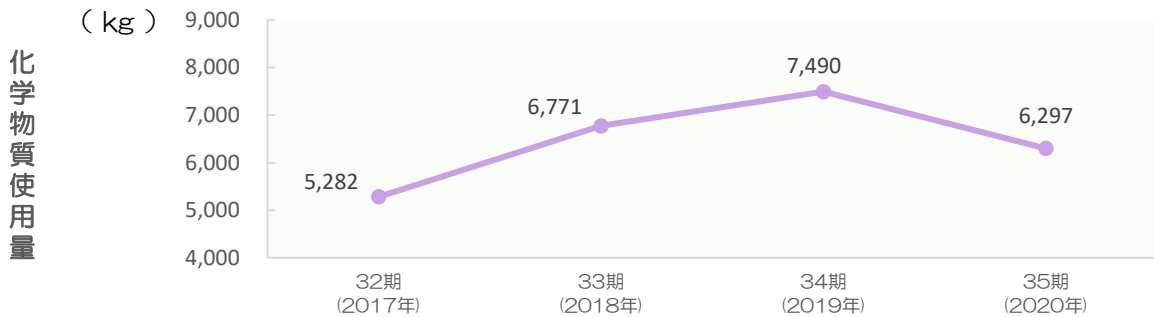
## 生産重量



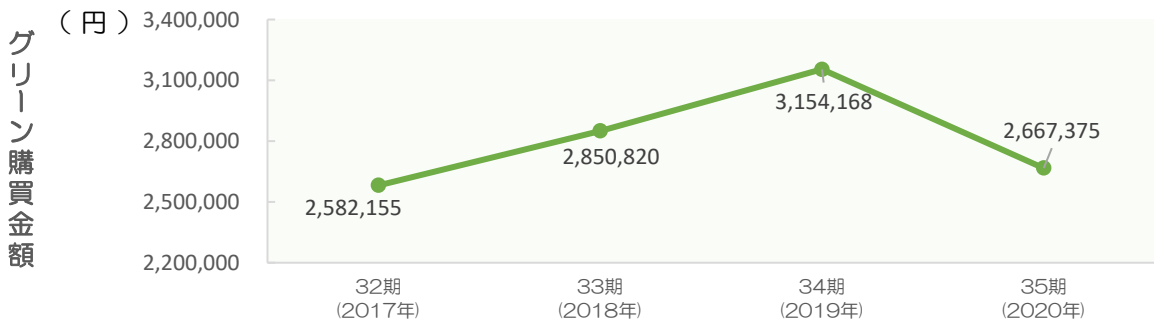
## 水総使用量の削減



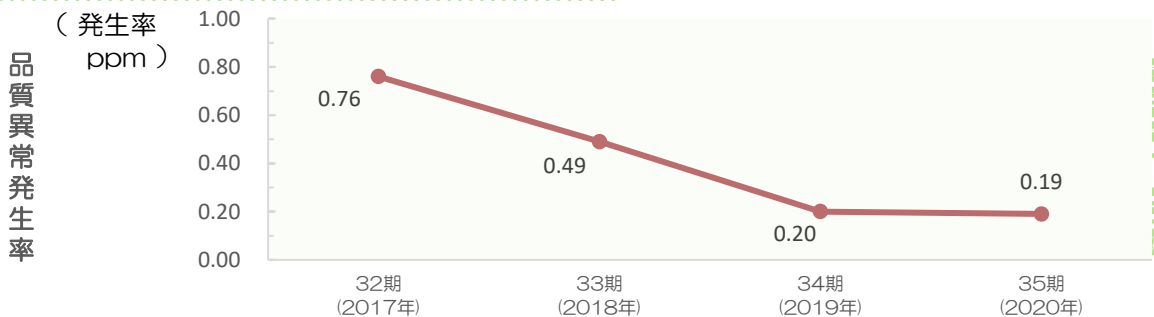
## 化学物質使用量の削減



## グリーン購買の推進



## 組織本来の取組 (品質異常発生率の削減)



# 環境経営計画の内容と取組結果の評価

## 1. 環境経営計画の取組内容

### 二酸化炭素排出量の削減

#### LED照明



工場棟・事務棟ともに蛍光灯からLEDに交換。

#### 社有車

社有車にはハイブリッド車を採用



プリウス

アルファード

#### 節電表示

##### エアコン設定温度表示



エアコン温度管理チェック表

適正設定温度を掲示し、実際の設定温度を記録しています。



適正温度を維持しましょう！  
エアコンは、夏は26℃、冬は24℃に設定しよう！

##### 消灯表示



トイレ、更衣室、各事務所に消灯表示を掲示。

##### 電力表示

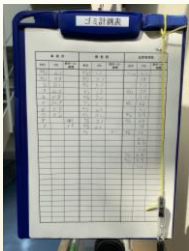


本社工場ではリアルタイムで瞬間電力の数値を確認できます。

## 廃棄物排出量の削減

### 紙類リサイクル

#### 紙類分別



ゴミ計測表

使用済コピー用紙やダンボールを分別・計量し、古紙回収業者へ買取をお願いしています。



#### 裏紙の再利用



全社にて、重要な書類以外は、極力裏紙を使用して印刷するようにしています。



### 廃棄物保管表示



各工場で廃棄物の保管場所・保管方法を設定し、表示を設けています。



### 資源回収



ボトルキャップやプルタブの回収に取り組んでいます。





# 水使用量の削減

## 器具洗浄



Bubble90（バブル90）を工場内の蛇口に取付。

水に空気を含ませつつ脈動流を起こすので、洗浄力を下げずに、水の使用量を削減することができます。

## 節水表示



水の出しっぱなしに注意しましょう！  
水の出し過ぎに注意しましょう！



食堂、トイレ、給湯室、開発部、品質管理部の蛇口に節水表示。



品質管理部にて超音波洗浄器を使用し、器具をまとめて洗浄。

## RO濃縮水の再利用



RO膜（逆浸透膜）により排水をろ過し、トイレの水として再利用しています。

## グリーン購買の推進



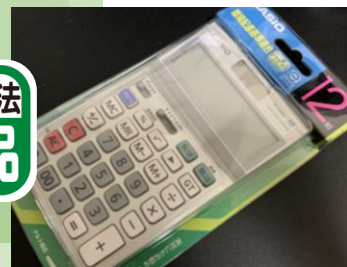
封筒



インデックスシート



グリーン購入法  
適合商品



「グリーン購入法適合」電卓

R70

古紙パルプ配合率70%以上の再生紙を使用



## 2. 環境経営計画の取組結果の評価、次年度の取組み

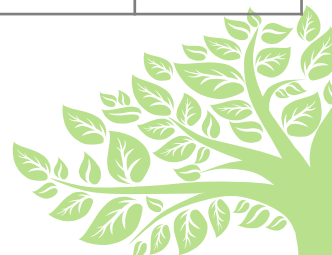
環境項目	活動計画	部署	評価	総括	次年度の取組み
1. 二酸化炭素排出量の削減	① 昼休み、不在時の消灯を行う	全社	○	不在時の消灯など、全工場で節電を目標に掲げ、実施できた。 退社時の消灯チェック記録も全工場で開始した。	次年度も取組みを継続する。
	② エアコンの温度管理を行う	全社	○		
	③ 退社時の消灯チェックを行う	全社	○		
	④ 長期休暇機器のコンセントを抜く	全社	○		
	⑤ クールビズ・ウォームビズの徹底に取り組む	全社	○		
	⑥ エコドライブを実施する	全社	○		
	⑦ フォークリフトの安全運転実施	製造	○		
2. 廃棄物排出量の削減	① 廃棄物の分別・計量を実施	全社	○	廃棄物の分別/計量は、全工場で定着した。 製造部内でロス改善プロジェクト活動中。	次年度も取組みを継続する。 ロス削減に注力すること。
	② 事務用品のリユース・リサイクルに取り組む	全社	○		
	③ ゴミ袋はいっぱいになってから捨てる	全社	○		
	④ ロスの削減に取り組む	製造	○		
	⑤ 「廃棄不良品」の削減に取り組む	品管	○		
	⑥ 紙管のリサイクルに取り組む	製造	○		
3. 水総使用量の削減	① 節水の掲示を行う	全社	○	節水については、定着してきた。 RO濃縮水の再利用は継続している。 工場現場の水道蛇口に「バブル90」を設置した。	次年度も取組みを継続する。
	② 水の出しっ放し、出し過ぎに注意する	全社	○		
	③ RO濃縮水のトイレへの再利用を継続する	製造	○		
4. 化学物質使用量の削減	① 新規製品の開発については、アセトニトリルをメタノールに変更する	品管	△	顧客指定の試験法は変更しないので、②と③を積極的に取り組んでいる。	次年度も取組みを継続する。
	② 分析時間を短縮して、化学物質の使用量を減らす	品管	○		
	③ 分析に使用する液量を最小限度にして、化学物質の過剰な使用をしない	品管	○		
5. グリーン購買の推進	① グリーン購入品リストを作成する	総務	○	①～③は、定着している。	次年度も取組みを継続する。
	② エコマーク製品の購入を推進する	品管	○		
	③ コピー用紙は再生紙を利用する	総務	○		
	④ エコ資材の導入を検討する	開発	○		
6. 組織本来の活動	① ゴミが多い＝品質異常品が多いなので、1年間のライン別のごみ量を計量して実態把握をする	全社	○	品質事故の共有化はライン朝礼で通知することが定着している。 また、工場別に製造部・品質管理部の合同会議を毎週実施した。	次年度以降も継続する。 ルールの徹底化により、品質事故の再発を防ぐこと。 ポカミス事例を毎週工場別に記録し、製造・品管の理解を共有する。再発防止にいかす。
品質異常品発生率の削減	② 品質異常発生件数を生産量で除していたものを指標として削減結果を評価する	全社	○		
	③ 指差し確認によるダブルチェックにより、ケアレスミスをなくす	全社	△		
	④ 他ライン、他工場での品質事故事例の共有を図る	全社	○		

### 【評価基準】

○：達成

△：未達成だが、努力が見られる

×：未達成



当社に架かる主な法規制は次のものです。

区分	No.	法令名	法令の適用を受ける場合	該当する施設・物質・化学物質等	適用	遵守状況
環境全般	1	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律	フロン類の製造から廃棄まで、ライフサイクル全体を包括的な対策を実施。	業務用エアコン	○	○
公害防止関連	2	ダイオキシン類対策特別措置法	電気炉、廃棄物焼却炉その他のダイオキシン類を発生する特定施設を設置する工場又は事業場	廃棄物焼却炉	○	○
	3	騒音規制法	指定地域。22.5kW以上の圧延機械、30t以上の機械プレス、7.5kW以上の空気圧縮機及び送風機、2.2kW以上の印刷機械等の特定施設。	コンプレッサー	○	○
	4	振動規制法	指定地域。機械プレス、1kW以上のせん断機、7.5kW以上の空気圧縮機、印刷機械等の特定施設。	コンプレッサー	○	○
廃棄物リサイクル	5	廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)	一般廃棄物、産業廃棄物、特別管理産業廃棄物の排出事業者。収集運搬業・処理業の認可者。	廃プラ、一般ごみ、焼却炉の燃えカス	○	○
	6	再生資源の有効な利用の促進に関する法律(リサイクル法)	パソコン等の特定又は指定品目の所有者、製造者等	パソコン	○	○
	7	特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)	テレビ、冷蔵庫、洗濯機、エアコンの消費者、事業者、小売業者。	テレビ、冷蔵庫、エアコン	○	○
	8	使用済み自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)	自動車所有者、引取り業者、フロン類回収業者、解体業者等	業務用自動車3台	○	○
化学物質	9	特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(PRTR法)	常用雇用者数21名以上で、第一種指定化学物質を年間1トン以上、特定第一種指定化学物質を年間0.5トン以上取扱う事業者等	エチレンジアミン 四酢酸	○	○
	10	労働安全衛生法 ・有機溶剤中毒予防規則(有機則)	安衛令別表に定める有機溶剤(第1~3種の54種)及びその混合物(5%以上)を使用する事業場	メタノール、イソプロピルアルコール	○	○
	11	労働安全衛生法 ・特定化学物質等障害予防規則(特化則)	安衛令別表に定める特定化学物質(第1~3類)を使用する事業場	塩化水素、硝酸、硫酸、アンモニア	○	○
	12	消防法(危険物)	消防法で定める危険物を指定数量以上貯蔵、又は取り扱い。危険物を運搬業。	エタノール、重油	○	○
県・市条例	13	香川県環境基本条例	事業活動に伴い、環境に負担をかけない措置、美化活動など、積極的な環境保全の努力	環境保全	○	○
	14	香川県生活環境の保全に関する条例	特定工場及びばい煙、粉じん、汚水、騒音、振動、悪臭に係る特定施設設置工場等	騒音・振動・悪臭	○	○
	15	観音寺市環境基本条例	事業活動に伴い、公害の防止、廃棄物の適正処理、自然環境の適正な保全を図る	環境保全	○	○
	16	観音寺市公害防止条例	工場等の届出 特定施設の届出、規制基準の遵守	工場等の設置	○	○
	17	観音寺市廃棄物の処理及び清掃に関する条例	事業活動に伴う一般廃棄物の適正処理 一般廃棄物の再生利用及び減量の努力	廃棄物	○	○

※ 当社に関わる環境関連法規等の遵守確認の結果、違反はありませんでした。

また、過去3年間にわたり関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。



# ■ 代表者による全体の評価と見直し・指示

代表者による見直しを2020年11月20日に実施し、下表の結果でした。

	項目	見直しの有無	評価コメント
1	環境経営方針	なし	サスナビリティ（持続可能性）の考え方を取り入れ、「持続可能な社会に貢献する製品の開発に繋げる」を行動指針に入れているので、今回は見直し不要。
2	環境経営目標	なし	何れの経営目標についてもほぼ目標達成しているが、継続して取り組むべき課題であるため、見直しは不要。
3	環境経営計画	なし	
4	実施体制	あり	来期になるが、2021年3月には本社第3工場が竣工予定である。全工場が対象となるよう実施体制を整備すること。

## 【全体評価コメント】

世の中の「脱炭素」や「SDGs」の潮流が明確になってきている今、OEMからODMへ軸足をシフトしている当社としては、益々環境に配慮した新製品の開発が急務である。

資材メーカーとも連携してマーケットのニーズに一早く応えられるよう、開発スピードを上げること。

コロナ禍による人流の制限やインバウンドの大幅減衰により、化粧品業界の先々は見通しにくい環境である。売上げ抑制がかかる中、製造の効率化やコストパフォーマンスの改善を目指し、より一層ロス削減による廃棄物量の削減に務めること。

代表取締役社長 上坂 史郎





## ■ 社内教育等の取り組み

### エコアクション会議



各工場で毎月エコアクション会議を開催。各部署毎の活動内容発表や、部署同士での意見交換を通して、改善に向けて新たな活動目標の設定を行っています。

### 避難訓練



年一回、各工場にて避難訓練を行います。避難完了までの時間計測や消火器の取扱い訓練も併せて行います。

### 他会社との交流



毎年、取引先様からご招待頂き、「QC活動の発表会」へ参加させて頂いております。

品質管理をはじめ、各部門の業務改善や営業戦略など様々な視点で取り組み発表がなされ、ノウハウを得られる場となります。

当社でも、発表会で吸収したことを各部門が活かし、製品の品質向上や業務の生産性向上につなげていきます。

